

関西聚 活動報告書

活動名：自然学習ゾーン整備

活動日：2020.10.25（日） 13:30～15:00

リーダー名：伊東 俊廣

報告者：伊東 俊廣

参加者：（一般参加者2人 スタッフ7人 美交工業1人 合計10人）

スタッフ：大川 英登、上田 泰史、山本 勲、小久保 広宣、岩崎 和子、林 俊、伊東 俊廣

活動内容：

1. 生き物調査
 - 昆虫調査（午前の昆虫観察会） 24種の確認
 - 草本調査 36種確認
2. 植栽した小低木の生育状況調査
3. 飼育箱のカブトムシの幼虫確認

活動報告・感想など

ニュースでは、今年はドングリが2年続けて不作の年となっており、クマなどが民家まで出没するのも、この不作の影響があると報じている。

一方自然学習ゾーンには、大量のドングリが落ちており、一昨年の台風で被害を受けたクヌギやコナラが、危機を感じてせっせと実を付けたのではないかと感じてしまう。

飼育箱のカブトムシの幼虫は、一生懸命降りホダギを食べている最中だった。上から覗くと幼虫がかなり見えていた。期待が持てそうだ。

学習ゾーンの植栽地区は、マユミの赤い実が見えているが、寂しい状況だ。先月の調査で生きていると思われた栗の木も危ないようだ。

別件だが、一昨日のテレビで、北海道にしかないシマフクロウの保護に取り組んでいる夫婦の活動を見た。収入も少ない中で、調査活動やフクロウが生きていける環境づくりの為に、針葉樹の人工林へ広葉樹を植えてこともやっているとのこと。コロナの影響で人が来なくなったので、逆にフクロウが子供を産みやすくなったなど、いろいろ考えさせられた。